

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600168	事業の開始年月日	平成25年4月1日	
		指定年月日	平成25年4月1日	
法人名	有限会社セルフビーイング			
事業所名	小規模多機能型居宅介護しおり			
所在地	(240-0033)			
	横浜市保土ヶ谷区境木本町37番8			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	9名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と変わらない環境で、第二の我が家として居心地の良い場になるよう心がけています。一人ひとりのニーズに合わせたきめ細やかなサポートし、急な対応(宿泊・通所・訪問)に応えられるようスタッフを配置しています。介護スタッフのうち半分が介護福祉士の資格を持ち専門知識をもって介助にあたっておりまた、毎日看護師を配置していることから、体調の把握・早期異常の発見・医療機関の連携等をしっかりと行っております。できることを増やしていけるようリハビリ(調理・食器洗い・洗濯干し・洗濯たたみ・園芸等)し役割をもち参加していただけるようにしています。また、機能訓練にも力をいれており、しおりオリジナル体操・嚙下体操・ペダルこぎ・歩行訓練・血行促進マッサージ・散歩等を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月16日	評価機関 評価決定日	平成27年4月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者・家族の都合に合わせた柔軟な対応 利用者や家族からの、予定外の通いや急な泊り、病院への通院同行などの要望に、柔軟に対応している。</p> <p>◇地域との良好な関係づくりへの努力 自治会に加入して、地域の納涼祭などの行事に参加し、講習会では認知症について説明するなど、地域との良好な関係づくりに努めている。 事業所の掲示板に「地域の行事案内」を掲示し、町内に「事業所だより」を回覧して、地域住民への事業所に対する理解を深めている。</p> <p>◇看護師による利用者の健康管理体制の強化 日中看護師が常駐しており、毎日のバイタルチェックで利用者の体調を管理して異常の早期把握に努めるほか、状況に応じて医療機関との連携を図っている。また、利用者一人ひとりに合ったリハビリ計画を立てて実施するとともに、食器洗いや洗濯干し、園芸など利用者のできることを担ってもらっている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇積極的な機能訓練による身体機能の維持・回復、歩行訓練や体操、ペダルこぎなどの機能訓練を取入れ、利用者の身体機能の維持・回復に努めており、介護度が改善されるようサポートしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護しおり
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関などに理念を掲げており、新人研修時、また会議等の様々な場面で職員に徹底させている。	「常に傾聴し、利用者の気持ちに添って、その人らしく生き活きと自然に過ごせるようサポートする」を理念に掲げている。 ・職員会議で、理念の具現策を共有して傾聴に努め、親しみのある言葉かけに留意している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、自治会の納涼祭等の行事にも参加し交流を深めている。また、事業所の外に掲示板を置いており施設内での行事を知らせボランティアの参加等をお願いしている。また、施設内だけでなく地域の方にも使用できるように、AEDを設置し掲示板上で知らせている。	・納涼祭等自治会の行事に参加し、講習会で認知症について説明するなど、地域との関係を深めている。 ・事業所の行事を、表に掲示し回覧板で通知して、近隣住民の参加を呼びかけている。毎月、傾聴、コンサート・尺八などの地域のボランティアを受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域コミュニティーで開催する「地域でのささえあい講座」に参加し、認知症の方への接し方や介護の方法をわかりやすく説明している。随時、見学者を受け入れ、行事開催の折には、参加を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、日々の取り組みを報告すると共に、自治会などでの困りごとを共有することで地域の一員としてのサービス向上へと繋げていく。	・2か月毎に家族代表、自治会長、地域住民代表、地域ケアプラザ職員の参加を得て実施している。 ・参加者の薦めで、地域への回覧板の取次を始め、災害時の地域との連携についても話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケアプラザ・区役所等と日ごろから連絡を密にし、困難ケースの際は事業所だけの対応ではなく、様々な機関に連絡しサポートしてもらいながら最善の対応ができるようにしている。	・区の担当課とは、事業所の課題について相談し、地域ケアプラザの依頼で新人研修を受入れ、また利用者を紹介してもらっている。 ・市の小規模多機能連絡会に出席し、市担当職員を交えた事例検討会にも参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、利用者も玄関先での日向ぼっこ等、自由に行き来ができる状況になっている。身体拘束マニュアルがあり、職員が常に関覧でき、また、会議などで周知の徹底をしている。	・身体拘束防止マニュアルに基づき、身体拘束にあたる具体例を職員会議で周知し、拘束をしないケアを実践している。 ・「ちょっと待って!」といった言葉の掛け方も、減らすように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日ごろから利用者の身体や表情・言葉等から、変化に気を付けるよう心がけ、また、家族との会話も多くし、介護負担等問題はないかヒアリングしている。また、発見した際は、区役所や包括支援センターに報告し協力を得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士の資格を持ち、職員に対して会議などで学ぶ機会を持つようにし、また、外部研修等の参加も促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、十分時間をとり、読み上げながら、ご家族の表情にも気を配り、専門的な用語は、分かりやすい言葉に置き換えて、ご本人ご家族に説明している。特に費用の面は、実際の数字を提示し、負担する金額の承諾をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、コミュニケーションを図り、ご自身の気持ちが話せるような雰囲気作りをしている。また、ご家族とは、連絡帳とは別に送迎の際にも1日の様子を伝えるようにしている。宿泊中にご家族から電話があった際には、様子を伝えると共に、利用者本人にも替わってもらい元気な声を直接伝えている。	・家族の意見や要望は、送迎時や家族との連絡帳のほか、年1回の家族面談時に聞き出すようにしている。利用者とは、日頃から話しやすい雰囲気作りを心掛けている。 ・家族からの要望で、各居室にタンスを設置するなど、要望や提案はその都度検討して運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議や申し送りノートなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に常に事務所のドアをオープンしておくことで職員が気軽に話ができるよう心がけている。	・毎月の職員会議や年2回の職員との面談を通して、職員からの意見や要望を聞いている。 ・職員からの提案で、介護職、看護職間の連絡ノートを一本化し、全職員の「申し送りノート」として活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、個人面談の機会を設け、個人個人の評価や目標を設定している。また、介護福祉士や介護支援専門員等の資格を支援するために、試験前には連続して休みを取り、勉強に集中できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、経験年数等に合わせた外部研修に参加し、月に1回の会議で研修内容を報告するようにしている。また経験年数の多い介護福祉士が職員の介護技術などの指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国小規模多機能連絡会や横浜市小規模多機能連絡会に定期的に参加し、同業者との交流を通してサービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用決定時から、必ずご本人に直接会って、お話をうかがうようにしている。その際は初対面の不安をできるだけ解消出来るように、笑顔と優しい口調を心がけ、本人が話しやすい雰囲気をつくるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とは別に、ご家族の話を聞く機会を作っている。ご本人には聞かせたくないご家族の本音を引き出し、不安や要望等についても時間をかけて聞き取るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要にしている支援を適切に提供できるかどうか、常に念頭において、小規模多機能のシステム(通所、宿泊、訪問)を丁寧に説明している。そのうえで、ニーズに合わない場合は別のサービスも説明しご本人とご家族が判断できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人の歩んでこられた歴史を尊重し、人生の先輩として接するよう心がけている。また、日々の生活の中で、一緒に笑いあえる時間を大切にしている。第二の家庭のような雰囲気作りを目指している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問しやすい雰囲気を作るように心がけており、他の利用者の方とも顔なじみの関係を築けるようになってきている。また、家族だけの時間も持つよう、個室での対面も随時行っている。家族面談を定期的にしており、本人の状態を共有しご家族と共に、サポートしていける環境をつくっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院等に、お連れするなどなじみの関係を継続できるように支援を心がけている。また、施設へご親戚や友人の方との面会も随時行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や利用者との日頃の会話の中から、利用者の馴染みの関係や場所の把握に努めている。 ・行きつけの美容院やメガネ屋に同行したり、親戚や友人との面会時には、個室でゆっくりと話が出来るように支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話がスムーズに行えるように職員が会話のきっかけを作るようにしている。孤立しそうなときはそばに寄り添い、他のご利用者とのコミュニケーションが図れるように、サポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了されても、電話連絡を行ったり、私物の返却時、ご家族の来所時等、機会を捉えて、その後のお話を聞くことで、繋がりを保ち、いつでも連絡していただけるような関係を作るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のご利用時に、ご利用者の表情を観察し、ご本人が自身の気持ちを表出できるように努めている。ささいな事でも、遠慮なくご希望を伝えていただけるように、お話ししている。暮らし方について、ご家族と意見が異なる場合は、まず、双方の気持ちを聞くようにし、時間をかけて歩み寄れるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生活の中で利用者の声を良く聴き、希望や意向の把握に努めている。把握が困難な利用者に対しては、家族からの情報や本人の表情・仕草から意向を汲み取っている。 ・把握した利用者の思いや意向は、申し送りノートや日誌に記入して、ミーティングで共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメント時は、できるだけ時間をかけてお話を聞くように心がけている。前任のケアマネジャーから情報提供を受けて、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご自宅を訪問して日々の暮らしを自身の目で確かめるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の会、終わりの会でのご利用者の表情観察と言葉かけから日々の体調の確認をしている。日々の申し送り、日誌、看護記録、介護記録、夜勤記録に目を通すようにし、現状を適切に把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書を作成し、ご本人ご家族に確認していただき、担当者会議に臨むようにしている。利用初回時には、個人ファイルの閲覧「介護ノート」に計画のポイントと注意事項を必ず記載し、職員が確認、把握できるようにしている。現状に変化があった場合は、関係者と連絡を取り、共有できるよう努力している。	・利用者、家族の希望を聞き、アセスメントを通して課題を把握し、ケース会議で話合っ介護計画を作成している。 ・計画は毎月のモニタリング結果を反映して6か月毎に見直し、状況に変化があった場合は臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子は個別介護記録に記載しご家族にも伝えている。詳細な日々の様子(宿泊者は夜間時の様子)は申し送り時職員間で情報共有し、介護の実践に活かすよう努めている。介護計画の見直し時には、再度目を通し現状を適切に把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居の方、ご家族と同居の方、主介護者が高齢の場合等、生活環境は一人ひとり違う為、それぞれの状況にあった対応ができるように、ご家族と連絡を密に取りながら必要なサービスを行えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の環境を大切にして、自宅での生活を継続できるように支援している特に独居の方は一人暮らしを続けていけるか不安になるときがあるので、何がその人にとって必要かを考えサポートし、またご近所の方との連携も大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては利用時に確認を行っている。受診は原則、ご家族の付き添いをお願いしているが、その際は看護師が体調の報告を文章で行い、医療機関との連携を行っている。独居の方やご家族が付き添えない時は同行し、体調を報告して指示を仰ぎ家族に伝えている。また、予防注射、医療相談等は地域の連携医に願している。	・利用者全員が従来のかかりつけ医で受診している。通院の付き添いは、原則として家族にお願いし、独居者や家族が困難な場合は、職員が同行している。 ・日中は看護師が常駐し、利用者の健康チェックや医療機関との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の様子や入浴時の皮膚の状態、座位保持の様子等、日常の変化を看護師に報告し、受診の判断等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や体調の変化があった時は必ず、医療機関に連絡し、看護サマリーを提出している。また、退院時は、現状を適切に把握するため、病院関係者と情報交換し、また看護師とともにリハビリ等を見学するなど、退院後の生活がスムーズに移行できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示の元、このままでは在宅の生活が難しくなると判断された場合はご本人やご家族と相談しながら、早めの対応を行っている。また、医療機関と協力、連携の上で可能な限り看護も行っている。	・重度化した場合は家族の意向を尊重し、主治医、看護師と連携して、可能な限り看取りを行なっていく方針である。 ・看護師がターミナルケアの外部研修を受け、結果を職員に説明して共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内はAED設置があるので、職員がすぐに使用できる状態である。定例会議等でヒヤリングハットの報告や急変時・事故発生時の対応を勉強し周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により、避難訓練を実施し、消火器の使い方や避難誘導などの確認をした。また、実施の際は、近隣への協力の依頼をチラシにしポストインしている。倉庫に非常用の物品を備えている。	・年2回地震・火災想定での避難訓練を実施し、近隣住民に参加・協力を依頼している。消防署の指導のもと、消火器の取扱い訓練を実施している。 ・災害用として3日分の水、米、レトルト食品などを備蓄している。	・夜間を想定した避難訓練を実施され、昼夜を通して避難誘導ができる体制作りが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員は、ご利用者を人生の先輩として、常に尊敬の念を持ち言葉かけを行うようにしている。特に排泄の際の支援には尊厳を損なわないように注意を払っている。また入浴の際には個室とし、肌の露出をしないように配慮している。	・職員は接遇について入職時や職員会議の中で研修を受け、利用者の人格を尊重し、人生の先輩として敬意を払いその方に合った言葉かけを行っている。 ・個人情報の書類は事務室の鍵のかかる戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人の表出のサインを見逃さずに、声掛けを行い、気持ちを伺うように注意を払っている。希望や不安に思っていることを引き出し、自身で判断していただくよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、施設の時間にとらわれないようにしている。散歩や買い物、受診等、ご本人の希望に添った過ごし方が実現できるようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行けない方は、事業所に美容師が来てカットしてもらい、希望によってはマニキュアをしてもらっている。また、外出や誕生日等の、特別な日には化粧をして写真を撮り、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、利用者に食べたい物を聞いて、一緒に作っている。ホットプレートや鍋を食卓に出し、目と香りでも楽しめるよう工夫している。また、後片付けも一緒に行うことで感想や要望も聞きとるようにし次に繋げている。	・毎月、利用者の好みを聞き、旬の食材を使いチラシ寿司、餃子や鍋料理などを利用者と一緒に作って楽しんでいる。 ・きざみ、とろみ食にも対応し、職員と一緒に歓談しながら食べている。利用者は、できる範囲で調理や食器洗いなどを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者・家族に食事量や好き嫌い等の情報を得て食礼を作成している。個々の嚥下状態に合わせて、刻み・とろみをつける等の対応をしている。夏などは水分チェック表を利用し、また水分が摂取しやすいように、スポーツドリンクや紅茶ゼリー等を作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に歯ブラシを持参してもらい、毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできる方は見守りし、できない方は看護師・職員が介助する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し、本人の排尿の時間を把握して声かけし、トイレ誘導をしている。一人ひとりの身体機能を職員が把握し、出来ることはご自身でもらう。	・排泄チェック表でリズムを把握して、トイレでの排泄を支援している。できることは自分で対応してもらい、利用者の自立を促している。 ・病院から退院後にはオムツだった方が、声掛けでリハパンに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄表を使用し、把握に努めている。また、宿泊になる日は家族に最終排便を確認している。食事の際には、繊維質の多い食事・ヨーグルト等を提供し、水分量にも注意をしている。また、毎日の体操で身体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人ずつゆっくりと入れるように配慮しており、入浴剤を使用し、ゆず湯・菖蒲湯など季節感も取りいれている。機械浴もあり、身体機能の変化等にも対応でき、体調によって入浴が出来ない際も、足浴器でリラックスできる。また、入浴拒否が強い方も時間をかえて入浴できるよう対応している。	・午前中、一日おきの入浴を基本とし、希望に応じ毎日の入浴にも応じている。 ・職員は、利用者が一人ずつのんびり話しながら入浴を楽しめるように支援している。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	宿泊室は洋室7室、和室2室とご自身の自宅での環境にあわせ、休息できるようになっている。夜間は個室にTVが置いてあり、寝付けないときなど、好きな番組を自由に観ることができる。日中でも、体調に応じて適宜、ソファや簡易ベット等で休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、処方箋があると共に、一覧表にして張り出すことで看護職員だけではなく全ての職員が把握できるように努めている。利用者の受診日を把握し、服薬の変更がなかったかを確認している。送りノート等に記載し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴の中から趣味や興味のあることを把握し本人が張り合いをもって役割を担うようにしている。その都度、感謝の気持ちを伝えることで、更に意欲や喜びがもてるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季の行事(花見・紅葉狩り・初詣等)の参加に加え、一人ひとりの希望に添い、日常必要なものを買物している。また、天気の良い日には近隣の公園へ出かけている。	・天気の良い日には、車椅子の方も一緒に近くの公園に散歩に出かけたり、玄関先で日向ぼっこを楽しんでいる。季節に応じて、初詣や花見、紅葉狩りに外出している。 ・希望者を募り、近隣のスーパーに買い物ツアーにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や必要に応じてお金を所持してもらい、施設の金庫に預かっている。日々必要なものや衣類等は近隣のスーパーに出かけ好みの物を選んでもらい、支払も職員がサポートしながら自分で行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、プライバシーを保護するために、別室で会話をしていただいている。また、ご家族から電話がかかってきた際は、利用者本人にも声かけし話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は常に清潔を保ち、心地良い音楽を流している。また、利用者が聞きたいCDを持ってきている。ご利用者が作成して1ヵ月ごとのちぎり絵カレンダーを居室に貼りだしている。また、個人個人の塗り絵を額にいれて飾っている。	・リビングには、テーブルやソファ、リクライニングチェアが置かれ、掘りごたつ付きの畳部屋もあり、利用者は好きな場所に座り、パズルをしたり、新聞を読んだりして過ごしている。壁面には利用者の塗り絵や手作りのちぎり絵のカレンダー、行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内には1人掛けのリクライニングチェアや2人掛けのソファがあり、個人個人がのんびり過ごせるスペースを確保している。また、テーブルの形状を丸型・四角型にし個々の関係性を配慮して座ってもらっている。和室は掘りごたつになっており、い心地のよい家庭的なスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室のドアは可動式になっている部屋があり、ご夫婦で宿泊の際は二間続きにすることができる。また、長期滞在者は、家族の写真を飾ったり馴染みの物を置いたりしできるだけ自室の雰囲気近づけるよう工夫している。	・和室、洋室の2タイプある居室はTVやカーテン、エアコン、箆箆が設置されており、好みの部屋で過ごせるようになっている。 ・長期の泊りの利用者は、家族の写真や手作りのカレンダー、誕生日のメッセージカードなどを持込み居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能を把握し、個別支援をしている。施設内の要所要所で手すりを設置し、環境整備することで、できることが多くなるように支援している、		

目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護
しおり

作成日 平成27年4月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	平成26年度は、夜間帯の避難訓練がなされていなかったため、今年度からは定期的に年1回実施する。	地域の協力を得て、共同で夜間の避難訓練を実施する。	消防署に連絡して日程調整する。地域には回覧板で避難訓練の協力をお願いし、近隣にはポストインにてお願いする。	6か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。